



田無神社

第38号

睦月

発行所
田無神社社務所

〒188-0011
東京都西東京市田無町3-7-4
TEL 042-461-4442

編集発行人
賀陽智之

令和6年 辰年にあたり

産業が高度に発達し、消費社会が進化する中で、近代合理主義とは異なる世界観への変容が求められているように感じる。

競争原理を凶に表すならば直線で、共生原理は循環だ。私たちは、近代合理主義と自然科学的世界観の下で人間中心の社会を築き上げてきた。今では誰もがそのことに気がついていて、(気がついていないことを期待したいが)、競争原理が社会を歪な形にしてしまった。地球というものは閉鎖系で限界が存在する。競争原理には限界がないので、資源でもなんでも、最後には行き着くところまで行ってしまう。近代合理主義に立脚する自然科学は、極端な言い方をすれば「物質主義」なのかもしれない。環境問題は規範を失った自然科学の暴走として捉えても良いが、技術としての自然科学を己が欲望のままに放蕩する、規範を失った近代合理主義を信奉する人類がもたらしたものでないだろうか。

神道は自然や自然現象などに基づくアニミズム的・祖霊崇拜的な日本の民族宗教である。神道の世界観の中には、自然への畏敬、自然との共生、戦いではなく和を大切にする心などが包含されている。自然と神とは一体として認識され、祭祀は神と人間を結ぶ作法である。森羅万象に神が宿っていると考え、あらゆる事象に「神」の存在を認める。神道には浄明正直という言葉がある。浄・明・正・直とは、きよく、あかるく、ただしく、なお

くという日本語をそれぞれ漢字一文字で表したものである。日本人は古来より、これら4つの言葉のような「内面的な礼儀」を大切にしてきた。

日本は戦後、世界に類のない高度経済成長を遂げたが、物質的繁栄にのみ目が奪われ、精神面の重要性への認識が希薄になる傾向が見受けられる。今日の日本は、国民の生活水準が著しく向上した反面、敬神崇祖の念は薄らいでしまった。そのような中にあっても我々は、自然、伝統、文化、郷土をしっかりと守り伝えるために、先祖から受け継いだ日本人の心を正しく後世に伝え、人々と自然、神々が共存する共生社会を築いていかなければならない。そして、異なる価値観や倫理観、異文化を尊重し、相手に敬意を持って生きていくことがこれからの古くて新しい世界観である。

狛犬

狛犬の表情は神社、あるいは地域によってさまざまである。怖ろしい顔つきをした狛犬や、ほつべたがぶくつと可愛い狛犬。作者の創造に任せて彫られた姿形はバラエティに富む。

大昔の日本には実物の獅子は存在しないし、まして狛犬は空想の動物である。狛犬は石工達が伝え聞いたその姿を創造に任せて彫ったものが多いようだ。神域を護るにふさわしい造形を、石工達が丹精込めて造り上げたものが狛犬である。

とはじめに氏神様を訪れた際に、昔の石工達に思いを馳せて、狛犬を眺めてみてはいかがだろうか。

大晦日の大祓式

令和5年12月31日(日)
午後3時齋行

12月31日(日) 午後3時から田無神社境内において「大晦日の大祓式」を齋行いたします。普段暮らしている土地の神様に対して、無事に過ごせていることへの感謝をお伝えし、半年間の罪と穢れを祓い落とします。

※ご予約は必要ございません。どなた様でもご参列できます。

「大晦日の大祓式」とは

大祓式は伊弉諾神の禊祓いを起源とし、宮中においても、古くから大祓がおこなわれてきました。中世以降、各神社で年中行事の一つとして普及し、現在では多くの神社の恒例式となっています。

年に2度おこなわれ、6月の大祓を夏越の祓と呼びます。12月の大祓は年越の祓とも呼ばれ、新たな年を迎えるために心身を清める祓いです。

私たちが日常生活で知らず知らずのうちにおかした罪穢れや禍を1年の半分にあたる12月31日に形

代(人形)に移して祓い除き、身も心も清々しく健康で幸せな生活を願います。

「形代(人形)の配布」

形代(人形)に氏名(ふりがな)・生年月日をご記入のうえ、ご自分の身体を撫で清め、息を3度ふきかけます。形代(人形)入れの袋にご住所お名前をご記入のうえ、社務所までお持ち下さい。形代(人形)は、12月31日(日) 午後3時より行われる祭典において、浄火にてお焚き上げします。形代(人形)は社務所にて12月1日(金)より無料で頒布しております。※形代(人形)は郵送でもお受けします。



令和4年師走大祓式鎮火祭

御朱印「辰年限定書体」

「令和6年辰年限定書体」御朱印のデザイン改訂

令和6年1月1日(月)〜令和6年12月31日(火)の期間、御朱印のデザインを辰年限定書体に変更します。

辰年限定書体には、五龍の印を押しします。

令和7年1月1日(水)から再び、現在の通常書体に戻ります。

初穂料……500円

頒布開始……辰年限定書体

1月1日(月)

場所……御朱印処



通常書体



辰年限定書体

一楽萬開札

令和6年「一楽萬開札」頒布開始

「令和6年の吉方は東」

11月23日(新嘗祭)から、2月3日(節分祭)の期間に田無神社社務所にて一楽萬開札を授与します。一楽萬開札をその年の吉方(令和6年は東)にお祀りください。

一楽萬開札を受ける事により、龍神様より最初の楽をいただけるといわれています。この最初の楽を一楽と言ひ、一つの楽が次の楽を呼び、次々に楽が集まり、「萬の道」すなわち人生が開かれることを一楽萬開と言ひます。

※今年度から一楽萬開札のデザインが変更されます。

切り絵作家の小出菟氏が札表面の五龍(昇龍)をデザインされました。



一楽萬開札

令和6年新春特別祈願

田無神社では「厄除開運・家内安全・健康長寿・合格祈願・社運隆昌・商売繁盛・方位除」等の新春特別祈願を執り行います。年の初めの一番祈願に本年の願いを込めてご祈禱をお受けください。

新型コロナウイルス感染症、季節性インフルエンザ対策として、1月1日(月)から1月18日(木)の期間、境内にトラステントを設置します。換気しながら、密を避け参拝者相互の距離をとって新年祈禱をご齎行いたしますので、安心してお参りください。万一、感染者が発生した場合に備え、個人情報への取り扱いに十分注意し、参拝者の受付表を適切に管理いたします。

ご祈禱時間のご案内

1月1日(月)
 (夜間) 午前0時から午前2時
 (昼間) 午前9時から午後5時
 1月2日(火)～1月5日(金)
 午前9時から午後5時
 1月6日(土) 以降 午前9時から午後4時
 大晦日夜から元日の朝にかけて

令和6年 方位除早見表

五龍神方位除

本年が運氣低迷にあたる生まれ年

令和6年 (男女共通)		
三碧	六白	八白
中央(八方恵り)	北東(鬼門)	北
昭和9年	昭和15年	昭和13年
昭和18年	昭和24年	昭和22年
昭和27年	昭和33年	昭和31年
昭和36年	昭和42年	昭和40年
昭和45年	昭和51年	昭和49年
昭和54年	昭和60年	昭和58年
平成63年	平成6年	平成4年
平成9年	平成15年	平成13年
平成18年	平成24年	平成22年

八方恵り 東回り中央に位置する年。方位除の中央に位置し、恵りを運まれているの運氣が幸運するとされます。

鬼門 東回りで鬼門に位置する年。方位除の北東に位置し、鬼門の方位が不利な影響を及ぼすと考えられています。

北 東回りで北に位置する年。方位除の北に位置し、運氣が落ち込み困難に陥る時期であるとされます。

令和6年 厄除け早見表(年齢は数え年)

厄除

令和6年

男性			女性 (表記は数え年)		
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成13年 24歳	平成12年 25歳	平成11年 26歳	平成19年 18歳	平成18年 19歳	平成17年 20歳
昭和59年 41歳	昭和58年 42歳	昭和57年 43歳	平成5年 32歳	平成4年 33歳	平成3年 34歳
昭和40年 60歳	昭和39年 61歳	昭和38年 62歳	平成64年 36歳	昭和63年 37歳	昭和62年 38歳
			昭和40年 60歳	昭和39年 61歳	昭和38年 62歳

厄年は古来より災難が多く、行動を忌み慎む年とされてきました。精神的・肉体的にも変調を来す時期であり、社会的にも転機の時期中、大事な節目の年でもあります。

家長が氏神社へ籠る「年籠り」から初詣が始まったとされていきます。正月の神とは農耕守護の歳神、または歳徳神と言われ、一家の守護神です。年が改まる前に参拝することを除夜詣、新年になつてお参りすることを元日詣といわれています。除夜とは大晦日を意味する除日の夜を意味します。

新年を迎えると、まず初めに、柳沢文化財保存会の一番祈禱が執り行われ、その後、ご祈禱(一般祈禱)が早朝3時頃まで続きます。1月1日の午前10時、氏子総代・世話人、来賓ら参列の下、社殿で歳旦祭が齎行されます。宮司はその後、正午に尉殿神社、午後1時

に天神社、午後2時に阿波洲神社で歳旦祭を奉仕します。

破魔矢・授与品

「縁起物は12月から頒布開始」

分散参拝の観点から、破魔矢などの縁起物を令和5年12月1日(金)より頒布いたします。授与所でその年の干支の絵馬が付けられた破魔矢を頒布します。元來、破魔矢は破魔弓と一式になったものであり、全国各地に見られる年占の際に行われた弓射を起源にするものといわれています。破魔矢はその名称のとおり、魔を破り、厄災を祓う矢として信仰されています。

ご祈禱の初穂料と授与品

初穂料	授与品
五千円	八寸お札、絵馬、お守り、祈り箸(初宮参りは歯固め石)
一万円	一尺二寸お札、五龍神御幣、絵馬、お守り、祈り箸(初宮参りは歯固め石)
二万円以上	一尺五寸お札、五龍神御幣、お神酒(2月～11月)、絵馬、お守り、祈り箸(初宮参りは歯固め石)

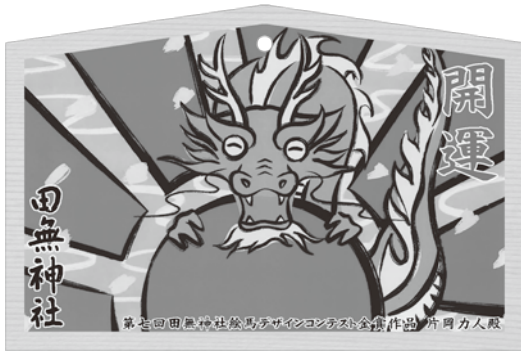
ご祈禱の初穂料と授与品

第7回
田無神社干支絵馬
デザインコンテスト
結果発表表

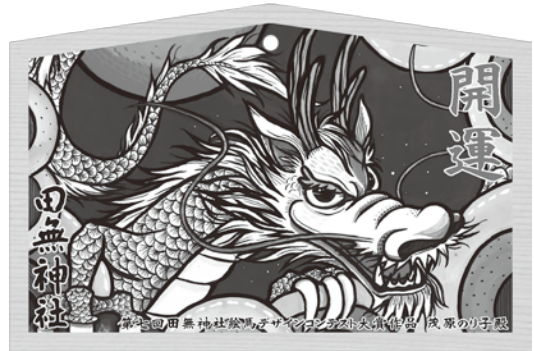
西東京市をはじめ全国の皆さまから数多くの作品（応募総数220作品）が寄せられました。その作品を令和5年9月に漫画家クロマツテツロウ氏、切絵作家小出菟氏による選考委員会にて厳正な審査を行いました。入賞者4名の作品を令和6年（2024年）田無神社絵馬デザインとして採用し、お正月の前後に絵馬として奉製（4体合計4800体）いたします。

展示会

- (1) 令和5年10月2日（月）から10月6日（金）の期間、アスタ2階センターコートにて田無神社絵馬デザインコンテスト入賞作品ならびに入選作品の展示会を行いました。
- (2) 令和6年1月1日（月）から1月8日（月）の期間、田無神社境内に入賞作品4作品を展示します。



金賞 小出菟賞
片岡 力人様



大賞
茂原 のり子様



J:COM賞
橋本 千夏様



金賞 クロマツテツロウ賞
立石 裕様

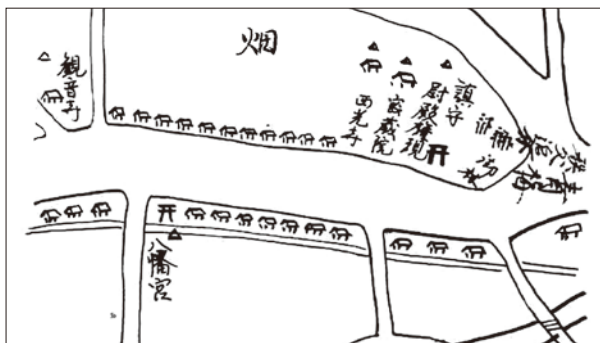
「尉殿考」第二回

シリーズ

令和4年に刊行した御遷座三五〇年記念誌『写真と資料から見る田無神社』の第1章「由緒」の項で、尉殿についての様々な説・解釈を紹介し、垂迹神である俱利伽羅不動明王は雨を降らす水の守護神であり、シナツヒコノミコト・シナトベノミコトは風雨の順調と五穀豊穡を司る神であり、尉殿は水の神であるとまとめました。その際に、紙幅の都合上、掲載できなかつた説・解釈を、田無神社社報で番号に渡り「尉殿考」として紹介していきます。

第1回目は、昭和38年に武蔵総社大國魂神社が刊行した『武蔵府中物語』から尉殿についての記述を紹介しました。第2回目は昭和59年に保谷市史編さん委員会が編集し、保谷市役所が刊行した『保谷市史別冊二保谷の石仏と石塔』から尉殿についての記述を紹介しました。第3回目は平成18年にとおび社から発行された片桐譲著『神と仏と村落共同体—宗教社会史の視座から—』をご紹介します。

尉殿の神を特定し、理解しようとする動きは、明治初期の初代社掌賀陽濟、二代目社掌賀陽尚賢の時代からありました。筆者も手を尽くして調べていますが現在までのところ有力な資料の発見等には至っていません。尉殿権現について、今後の論文等による学術的なアプローチから解明されていくことを期待します。



古地図一部模写(天保14年)下田家所蔵

尉殿神社の祭神については、従来水の神という伝承はあったという伝承はあったものの「社殿内に住吉の化身である高砂の翁の面があるから住吉の神である」また、「田無神社の祭神と併せて夫婦の神であった」などといわれて、正確には把握されていなかったようであり、その原因はひとえに尉殿＝ジヨードノの理解のむつかしさにあったものと思われる。祭神の神体がなぜ俱利伽羅不動であったのか、市文化財の指定にあたってできるだけ正しい由緒をたどっておく必要があるだろう。

『新編武蔵風土記稿』から抽出すると、

旧館村十殿(現志木市)、上内間木村重殿(朝霞市)、染谷村重殿(大宮市)、丸山村頭殿(伊奈町)、中野村通殿(鴻巣村)、大野村重殿(戸田市)、田無村尉殿(田無市)、林村重殿(所沢市)、喬木村尉殿(東和和市)、福田村通殿(川越市)、岡古井村通殿(加須市)、地頭方村通殿(吉見町)、桶川村十殿(桶川市)、久保島村蔵殿(熊谷市)、以上十、重、頭、通、尉、蔵など、濁音を持つ一字の

「ウー」と尊称「殿」が一致する諸殿(以下「〇殿」と称する神社が採録されている。(中略)「これらジヨードノの神に關心を寄せる研究者」の「調査の広がり」と前述したが、それらは『志木市史調査報告書志木風土記第九号』「十殿権現小考」(神山健吉)、『坂戸市史調査資料第十九号』「地名尉殿・重殿」(小島清)などである。この研究論考から地名としてのジュー・ジヨードノなどを拾うと、坂戸市内に尉殿(中里・重殿(森戸)・尉殿塚(森戸)・上殿(萱方・ズウ殿(厚川)、小川町に重殿またはジユウデン、越生町に上殿、毛呂山町に十殿・重殿淵、川越市(田島)に頭殿、妻沼町に蔵殿、岡部町に蔵殿、吹上町に通殿とあり、これらは湧水地点、小水路、河川、淵など生活に欠かせぬ水と緑のある場所に限られているらしい。歴史地理的な環境を選択し、フィールドを拡げて調査すれば、武蔵野を含む関東のうちには多くの類例が発見されるだろう。そこからもう一つ、尉殿の歴史ないし民族の普遍性が見えてくるともいえそうである。

32年前のお神輿新調

田無神社例大祭が、宵宮 10月14日(土)・本宮 10月15日(日)に斎行されました。新型コロナウイルスの影響や、台風の被害をはさみ、台車に神輿を乗せて市内を巡るなどとした縮小期を経て、5年ぶりに復活した市中神輿巡幸には両日とも400人を超える担ぎ手が参加されました。担ぎ手たちの威勢のよいかげ声が響き、にぎわいと活気に包まれ、勇壮な神輿が、雨降る田無の町を華やかに彩りました。

田無神社例大祭では大小さまざまなお神輿が渡御します。宵宮では万燈神輿と女神輿が渡御し、本宮では本社神輿と子供神輿が渡御を行いました。宵宮の万燈神輿と女神輿は午後6時に田無駅北口・アスタ前から出御し、午後7時半に田無神社立体駐車場2階入り口に還幸しました。本社神輿は午前10時45分に田無神社社殿前から出御し、午後3時45分に神社に還幸しました。その後、午後4時から宮入道中神事を行い、本社神輿が参道を往復しました。

この宵宮の女神輿は三榮会のお神輿です。

ここに有限会社東興通信社がかつて発行していた週刊東興通信のお神輿新調に関する記事をご紹介しますとともに、若干解説します。また、校正の都合上、記事の一部改変を加えています。



令和5年神輿供奉



令和5年子供神輿度御

**田無に相ついで
新しいみこし登場
夏祭り、秋祭り、春祭り…
ブームに乗って町興こし**

田無の二つの商店会が、今年相ついでみこしを購入、10月の田無神社例大祭にはそろって登場することになった。"みこしブーム"の背景には市民の精神的なよりどころの見直しと町意識の高まりがうかがえる。関係者は、この秋祭りのほか、夏祭り、春祭りも盛大に、と意気込んでいるが、一方で担ぎ手不足という問題も生まれ、うれしい悩みにも思案しきりのようだ。(清川 忠久記者)

悩みは担ぎ手不足

さる6日、2区の商店会主催のチビツ子夏祭りでは新しい子供用みこしがお目見えした。

(中略) 以前この2区では大人用のみこしが夏祭りでは担がれていたが、1950年代終わり頃、勢いあまって死傷者の出る騒ぎとなり、その後しばらく中断していた。76年に再開され

たが、子供主役の祭りの方がイメージが良いだろうとチビツ子夏祭りとして、みこしも子供が担ぐことに。みこしは谷戸などのよその地域から子供用のものを借りていたが、このほど地域の振興も合わせて2区の商店会が寄付金を募り、和太鼓とともに購入した。重さは約60キロ。

みこしの行事には、神社などで祭られている御霊(みたま)の分身をみこしに移し、外界を見てもうために神幸を行うという意味がある。チビツ子夏祭りは現在田無神社境内にある津島神社のササノオノミコトの御霊を担ぐ。(1) 明治時代に田無に疫病が流行した時、厄除けのために祭られたもので神幸は大正時代に始まったという。昭和初期には旧2区(1区の東から市境までの付近)の天王祭がこれと同時に開かれるようになり、双方のおおみこしがぶつかり合う威勢のいいけんか祭りとなった。だがそれが加熱して事故が起き、2区では祭りが中断することになる。1区ではその後柳沢文化財保存会によって天王祭の運営のほか、おおみこし

の保管が行われ今年も7月13日、14日の両日開かれる。

ところで、2区の商店会のチビツ子夏祭りは、これまで会場に当ててきた海老沢呉服店の駐車場がはずれ駅前開発で使えなくなり。そこで2区の商店会では、この祭りを1区の天王祭と再び合同の祭りとして復活させ、それを大々的なイベント「田無の夏祭り」にしたいとの思惑もあるようだ。

一方、この10月中旬に行われる田無神社例大祭に、もうひとつ旧3区（2区の西側、本町4、5丁目を中心とする地域）の商店会の新みこしが登場する、同商店会は今年ちょうど20周年、しかも今年度の例大祭の登板とあって購入に踏み切った。みこしは大人用で総重量が175キロと担ぎ手が60人以上のものお目見えは9月半ばになる。

（中略）同商店会の会長は「3区にはみこしがありませんでしたし、駅前開発後は田無の中心が2区からこちらに移ります。これを機会に地域の活性化に拍車をかけたい」と、意気込みを語る。

ただ、悩まないわけではない。60人で担げるみこしといっても、交替要員を含めると約100人ほど必要となり、同商店会の中で担ぎ手を集めてもとても足りない。しかもこの例大祭には、例年4、5基のみこしが繰り出すので、市内の他地域からの応援もあまり見込めない。同商店会では、今年の例大祭の具体案が決まり次第、問題の検討に入ることになっている。

人員不足は1区でもすでに問題になっている。1区のみこしは15年前、会のメンバー自らの手によって大改造が行われた。以前は大人20人で担げたものが、改造後は3倍の60人以上が必要となるほどのスケールアップとなった。当初は担ぎ手が40人ほどしか集まらず、かなり苦労したが、現在は武蔵野市や東久留米市などから「助っ人」を頼んで人員不足に対処している。田無神社でも例大祭に神社のみこしを出すのが、人員不足の場合にはやはり市外からの応援に頼ること。

人手対策に頭をひねりながらも、夏祭りの復活や、例大祭を

盛大な秋祭りとする企画、さらには田無神社の五穀豊穡祭を春祭りにとの計画もつぎつぎに挙がっている。この「祭りブーム」の背景は何か。田無神社では、戦後の復興から庶民の興味の対象が多様化したため、一時期すたれてしまっていた祭りが、モノあまりの時代に入った今、精神的な充足感を古来からのお祭りにあらためて求めるようになり、そこに地域の活性化という問題が呼応したのではと分析している。

週刊東興通信 第1604号
1991年7月10日（水）



上記の記事に(1)「明治時代に田無に疫病が流行した時、厄除けのために祭られたもの」とありませんがこれは誤りです。以下に津島神社の縁起についてご紹介します。

平成2年（1990）に田無市

企画部市史編さん室が発行した『たなしの歴史2』から引用します。

『柳沢地区の稲荷講中の祀る稲荷もイヌキの家に残されていたものである。この稲荷の所有者は、柳沢の山川権左衛門という。この家は「藤屋」という脇本陣の家であった。明治中頃まで宿屋を営み、明治22年前後には田無から他村へ移っていった。同家には、寛文年間尾張の津島から移住してきたという伝承がある。尾張からこの田無に落ちの日でくる際、津島神社を勧請し、その分霊を背負ってきたのだと伝えられる。その津島神社は「藤屋」の敷地―現在柳沢集会所あたり―に稲荷様と並んで祀られていた。津島神社は後に田無神社の脇に移され、稲荷の方は現在もそのまま残されている。

「藤屋」が他村へ移った後、残された地所は柳沢の海老沢、笠原、山川の3軒の家でひきうけ、津島神社はこの三軒と、萩原、須田の5軒が肝入りとなってお祀りするようになった。7月にある天王様のまつりがこの津島神社のまつりであり、現在は柳沢地区全体のまつりになっている。』

引用・田無市企画部市史編さん室『たなしの歴史2』祠を祀ること

（香月節子）1990 pp.53-54

刑部真琴銅像除幕式記念祝賀会祝詞

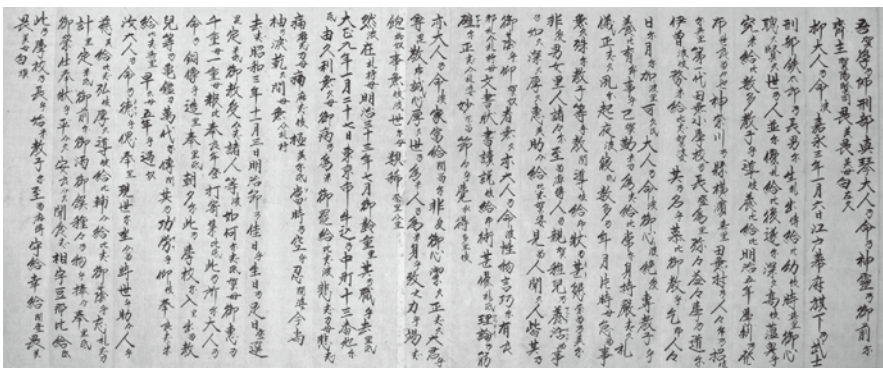
田無神社宮司の母校である西東京市立田無小学校。令和5年、開校150年の節目となりました。ここに田無小学校150周年を祝して、初代校長である刑部真琴（おさかべまこと）をご紹介します。御選座三五〇年大祭記念誌『写真と資料から見る田無神社』に刑部真琴について詳しく記載しておりますので、こちらもあわせてご確認ください。

田無の地に最初の学校ができたのは、明治元年（1868）に医者であり田無神社初代社掌になる賀陽濟（玄順）が自宅に開いた手習所が始まりと伝われます。近隣の子供たちを集め教育にあたったところ、次第に評判を集め、80名以上の生徒が集まったとされています。明治に入り、全国学校制度が導入されたため明治6年（1873）に横浜より刑部真琴を教員として招聘し、今の総持寺の隣にあつた密蔵院に田無小学校の前身の「真誠学舎」が開校しました。刑部真琴は土族の子弟として武蔵国に生まれ、漢学や書を学び、幕府陸軍附属取調役を務めたのち静

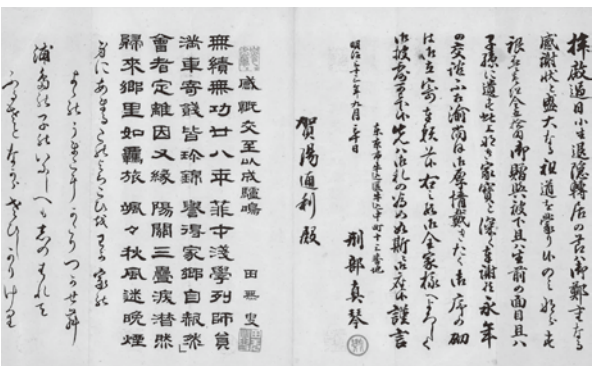
岡県にて教員を務め、さらに数学の修業をした立派な教育者でありました。その2年後、明治8年（1875）に「田無学校」と改称し明治16年（1883）には、新校舎が建設され刑部真琴は初代校長に選出されました。その後、時代と共に「田無尋常高等小学校」、「田無国民学校」を経て、戦後の昭和22年（1947）に、現在の名称である「田無小学校」となりました。

刑部真琴は大正9年（1920）に71歳で逝去され、その8年後の昭和3年（1928）に有志により田無小学校に初代校長である刑部真琴の銅像が建てられました。この祝詞は銅像建立の5周年に当たり、田無神社4代宮司 賀陽賢司により作文されました。文中では刑部真琴の生い立ちにはじまり、教育者としての田無町との関わりから、帰幽するまでの一生の足跡をたどり、多くの人々の尊敬を集めたとしています。人柄にも言及しており「常尔身持巖志久礼儀正志久」と品行が良く礼儀正しい人であり、また「性物言巧尔有良邪礼介礼抒母文書状書讀説伎甚優礼互」と生来お話しは苦手な方であ

りました。が、文章を読み解く能力は並外れた人であったと伝えていきます。



刑部真琴銅像除幕式記念祝賀会祝詞



明治32年9月30日

刑部真琴が3代宮司賀陽通利にあてた書

田無小学校には初代校長となつた刑部真琴の胸像や名主・下田半兵衛富宅の功績を称えた養老畑碑があります。養老畑の揮毫は手習所を開いた田無神社初代宮司賀陽濟（玄順）によるものです。



日露戦役記念碑と兵士

日露戦役記念碑

日露戦争での戦勝を記念し、明治40年(1907)に教育者である刑部真琴によって建立されました。文字は日露戦争の際に元帥陸軍大將として満州軍総司令官を務めた大山巖による揮毫です。日露戦争では田無村から71人が出征し、3人が戦死、68人が凱旋帰国しました。71人の出征者のうち、70人が陸軍、1人だけが海軍でした。この碑の裏には出征者の氏名が、田無小学校の初代校長・刑部真琴の発案によって彫られ、その消息を今日に伝えていきます。刑部真琴は阿波洲神社拝殿に掲げられている凱旋記念扁額にも保谷出身従軍軍人の名を刻んでいます。

大山巖は元帥陸軍大將で元老、貴族院議員を歴任しました。西郷隆盛、西郷従道は従兄弟です。日清戦争においては陸軍大將として第2軍司令官となりました。日露戦争においては元帥陸軍大將として満州軍総司令官となり、大いに日本の勝利に貢献しました。同じ鹿兒島出身の東郷平八郎とあわせて「陸の大山・海の東郷」と並び評されています。



刑部真琴銅像除幕式記念祝賀会
昭和3年11月



阿波洲神社凱旋記念扁額

御遷座三五〇年大祭記念誌
「写真と資料から見る 田無神社」

御遷座三五〇年を祝し、神社の歩みを写真と資料で辿る記念誌を令和4年12月に発行しました。田無神社の倉庫に眠っていた古写真など約1,000点を掲載。特別寄稿として第2章「田無の歴史と下田半兵衛」で近辻喜一氏が「田無の歴史」を、行田健晃氏が「下田半兵衛」を、第6章「境内の石造物」

で廣瀬裕之氏が「供養塔」・「石盥銘」・「本殿基壇銘」・「將軍山碑」についてそれぞれ解説されています。A4判、約330ページの記念誌には写真800点、資料203点を収録。「由緒」「大祭と神輿(みこし)」「本殿・拝殿と参集殿」「境内の石造物」「神社と戦争」「御遷座祭」など全10章で構成されています。記念誌は田無神社社務所で販売(定価3000円税込)しています。

御遷座三五〇年大祭記念誌

写真と資料から見る
田無神社

写真800点、資料203点掲載！
神社の歴史を鮮やかな写真と貴重な資料で辿る

令和2年10月11日御遷座三五〇年大祭が盛大に行われ、田無神社は大きな節目を迎えました。鎌倉時代の創建から今日まで人々の祈りを紡いできた歴史について、神社に残された記録、氏子・崇敬者の方々や研究者の皆様よりお寄せいただいた膨大な資料を宮司が分析し、考察を加えて取りまとめました。初めて公表される貴重な写真や資料が盛りだくさんに掲載されています。神社とともに生きる人々の祈みを後世に伝える永久保存版の一冊です。

田無神社農園

11月13日(月)に田無神社農園でししとうの収穫、「小松菜」と「カブ」の種蒔き、ネギの苗付けを行いました。「小松菜」と「カブ」は令和6年3月に、ネギは5月に収穫する予定です。

田無神社農園では、下田農園の下田将人さんに指導を仰ぎ、お祭り・祭典でお供えする野菜・果物を栽培していきます。農園での野菜・果物の栽培の状況等については、田無神社公式HP・SNSを通じて紹介してまいります。



ししとうの収穫



ネギの苗付け



カブの種

識別ポイント

【シオカラトンボ】



・眼の色が水色



・体の色が淡い青色

【オオシオカラトンボ】



・眼の色が黒色



・体の色が濃い青色

調査・監修NPO birth

◆ 今回の調査で見つかった主な生きもの



※☆マークは生きもののレア度を表しています。☆3が最高ランクになります。

調査・監修NPO birth

龍神池が完成して5年が経過し、池に数種類のトンボが見られるようになりました。龍神池にはよく似た2種類の青いトンボ「シオカラトンボ」・「オオシオカラトンボ」が確認されています。シオカラトンボは眼の色が水色で、体の色が淡い青色です。オオシオカラトン

ボは眼の色が黒色で体の色が濃い青色です。じっくりと観察して識別に挑戦してみてください。これからも地域の自然を大切に、皆様に親しまれる生きもの豊かな池になるよう見守っていきましょう。龍神池での生きものの採取や放流はご遠慮ください。

龍神池レポート 〜生命が宿るビオトープ〜 第10回 「シオカラトンボの観察」

神社からのお知らせ

神社de献血

1月4日(木)、1月5日(金)、1月6日(土)に国登録有形文化財の田無神社参集殿において、献血会を実施します。輸血を必要としている患者さんの尊い生命を救うため、献血にご協力をお願いします。

受付時間…午前11時～午後3時半
場所…田無神社 参集殿

室礼教室

由来や意味を学びお正月を楽しみましょう。

当日は餅花を作ります。

※どなたでもご参加できます。

日時…午前10時～正午
会場…12月17日(日) 田無神社 参集殿

会費…¥3000(当日会場でお支払いください)

講師…唐澤都志子(室礼研究会 ゆずり葉講師)

申込締切…12月10日(日)

節分追儺祭

令和6年2月3日(土)午後3時より、社殿にて立春前日に災厄

をはらい1年の幸福を祈り、来たるべき春に感謝する伝統行事「節分追儺祭」をご齋行いたします。

新型コロナウイルス感染症・季節性インフルエンザが拡大している状況を受け、参拝者の健康・安全を考慮した結果、2月3日(土)に行われる予定であった節分祭の豆打ちは中止することにいたしました。参拝者の皆様の健康・安全を第一に考慮してまいりますので、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

※年男・年女の厄除け祈祷は通常通り承ります。

紀元祭

2月11日(日)午前10時より社殿にて紀元祭を齋行します。紀元祭は、初代 神武天皇(奈良県・宮幣大社 橿原神宮の御祭神)が橿原の宮に御即位された日として、明治6年に定められました。この日は全国の神社で「紀元祭」が執り行われます。田無神社でも毎年紀元祭を厳粛に齋行し、国家と国民の長久繁栄を祈願します。

初午祭

2月最初の午(うま)の日は「初午」と呼ばれ稲荷神の縁日です。稲荷の大神に五穀豊穡を祈り感

謝を捧げましょう

日時…令和6年2月12日(月)

午前10時 野分初稲荷神社前

午前10時半 賀陽家屋敷

午前10時半 賀陽家屋敷

稲荷神社前

祈年祭

令和6年2月17日(土)午前10時より社殿にて祈年祭をご齋行いたします。祈年祭(きねんさい)は「としごいのまつり」とも呼ばれます。祈年祭は五穀豊穡を予祝、祈願するお祭りであり、秋に収穫した穀物を神前にお供えして感謝をささげる「新嘗祭」と対をなしております。

稲の「奉納

令和5年4月末に参拝者の皆様に、「バケツ稲づくりセット」を配布しました。稲の成長を見届けていただき、ありがとうございます。10月9日(月)午後2時から社殿で拔穂祭を齋行し、収穫さ



れた稲を10月15日(日)例大祭でご神前にお供えしました。また、本社神輿・子供神輿に稲穂を括りつけ、大神様と共に渡御しました。

復刻五龍神根付けみくじ

令和6年1月1日(月)から五龍神根付けみくじを復刻版として再頒布します。根付お守りは全部で15種類。おみくじと根付けお守りがセットになっています。初穂料500円
頒布場所 おみくじ処
無くなり次第頒布終了



令和5年例大祭 5年ぶり！市中神輿渡御

